

構  
想案に意見を

# 未来のふるさとづくりを具体化



▲恵那市街地の遠景とリニアの車両

昨年度から策定を始めた「リニアまちづくり構想(案)」がまとまりました。この構想は、2027(平成39)年に開業を予定しているリニア中央新幹線(以下、リニア)の開業効果を生かしたまちづくりを行うための基本的な考え方を示したものです。ここでは、構想(案)の概要をお知らせし、皆さんからの意見を募集します。

問 リニアまちづくり課 26-2111 (内線385)

## ■新たな将来像を描く

リニアが開業すると、首都圏や沿線地域との交通手段の環境が飛躍的に向上します。所要時間の短縮による利便性の向上とともに、地域間交流の活性化で地域の観光や産業などへの幅広い効果が期待されます。中山間地を多く抱える本市では、人口減少や少子高齢化に対応した地域づくりを進めていくことは、早急の課題です。リニアの開業を好機と捉え、新たな地域の将来像を描いていく必要があります。

このような背景を踏まえ、リニアの開業を見据えたまちづくりと取り

組みの進め方を示すものとして、構想を策定しました。

構想は、平成24年6月から、19人の委員で組織した「リニアまちづくり構想市民委員会」で検討してきました。委員会では、分野ごとのグループ会議と全体会議を行いました。

構想を進める目標年次は、東京都・名古屋間が開業する予定の平成39年までとします。平成28年度から始まる次期総合計画に内容を反映させて、構想の実現化を図っていきます。

## ■目指すべき将来像

リニアまちづくり構想では、次のような将来像を定めました。

「リニアでわくわく ちょうどえーなー 暮らしのびのび、遊びウキウキ、仕事すいすい、未来のふるさとづくり」

この将来像には「リニア時代には時速500kmで人とまちがつながり交流の輪も広がる。古き良き歴史が残り、自然豊かなまちで移りゆく四季を満喫でき、交通の便もよい。不便過ぎず都市化していない、ちょっとしたいい居心地の恵那。ここで、ゆったり暮らし、時には遊び、仕事もできるふるさとをつくりたい」という思いが込められています。

## ■3本の柱で取り組む

取り組みの考え方は、リニアの開業効果を生かす分野となる「観光振興・まちづくり」「産業振興・地域振興」「地域づくりを支える基盤整備」の3本の柱で示しました。

### ①観光振興・まちづくり

既存の豊富な観光資源の現状を踏まえた上で、観光情報の発信や広域観光を推進し、来訪者をおもてなしするための整備を進めます。

主な施策は、恵那峡の再整備、明知鉄道での蒸気機関車の復活検討などです。またリニア関連企業の就業者や、田舎暮らしの希望者の需要を踏まえた住宅の供給を検討します。「食」を観光振興にとって重要な要素とも考え、恵那の素材を生かした

食の提供や、伝統を大切にしたい食の後世への伝承を行います。

地域の魅力を高め、訪れる方々が美しい景観や地域の文化に触れ、魅力的なまちを実感できるような地域づくりを進めていきます。

### ②産業振興・地域振興

リニア岐阜県駅(以下、リニア駅)と中部車両基地の立地を視野に入れ、リニア関連企業や研究機関などの誘致を促進し、新たな企業進出や雇用促進を通して、地元産業の振興につなげます。

主な施策は、企業立地の適地調査や、地元企業とリニア関連企業との技術交流会の検討、起業の支援などです。また地域の特産品が1カ所です。また地域の魅力を発信できる施設として、**※1**ハイウエーオアシスの整備に向けた調査検討を進めます。

農村景観日本一などの豊かな自然を生かした農業体験などに取り組みます。恵那ならではの「田舎暮らし」を体験できる宿泊施設や、滞在型市民農園の整備の検討、地元の生産物を身近に提供できる「道の駅」の立地の検討を進めます。

### ③地域づくりを支える基盤整備

リニア駅までは、在来線に加え、車が主な交通手段であるこの地域では、道路が重要な役割を果たします。リニア駅への道路整備は、駅が中

津川市に設置されることから、中津川市との連携が重要になります。具体的には、中津川市と恵那市の両市街地とリニア駅とを結ぶ路線の整備やリニア駅までの直通バスの運行や明知鉄道の延伸を検討します。また広域的な交通基盤の整備は、近隣の市や町、国、県と十分協議を行い、連携しながら進めます。

市内では、リニアの誘客効果呼び込むための道路整備や、リニアの工事に必要な工事用道路の将来的な有効活用など、円滑な交通手段を確保します。またリニアが通過する沿線地域の基盤整備に取り組みます。

観光振興や産業振興に必要な基盤整備では、水や緑、空気、歴史などを大切にしながら整備を進めます。恵那峡サービスエリアへの**※2**スマートインターチェンジの設置の検討なども進めます。

## ■整備関連の地域課題

リニアの通過地域では、工事中や開業後の生活への影響などが懸念されます。リニアまちづくり構想では、開業効果を生かすことを前提に検討を進めてきました。工事や生活への影響などは、直接関わる地域の方々との協議を行い、事業者(JR東海)などへ伝えます。また市で取り組むことができるものは、取り組みを進めます。

## リニアまちづくり構想案に意見を

市では、市民の皆さんの意見を反映させるため、リニアまちづくり構想(案)への意見を募集します。

この構想(案)は、リニアまちづくり課や市情報公開コーナー(本庁舎3階)、各振興事務所、市中央図書館、市ウェブサイト(<http://www.city.ena.lg.jp/>)で閲覧することができます。閲覧期間は、意見の募集期間と同じです。

- 締め切り 3月3日(月)
- 提出方法 本紙(1月1日号など)に折り込んでの広報直通便やファクス、電子メールなどで、**①住所****②氏名****③連絡先**(電話番号)一を明記して意見をお寄せください。  
※見出しは、他の意見などと区別するため「リニアまちづくり構想」などとしてください
- 申・問 リニアまちづくり課 26-2111(内線385)、25-6150、[linear@city.ena.lg.jp](mailto:linear@city.ena.lg.jp)

※1 ハイウエーオアシス=高速道路のサービスエリアに隣接し、高速道路と一般道路から利用できるよう設計された施設  
※2 スマートインターチェンジ=高速道路のサービスエリアなどに設置されるETC専用のインターチェンジ